

THE GRANPHONIC CONCERT 10th



グランフォニック 第10回定期演奏会
2011年5月28日(土)
愛知県芸術劇場コンサートホール

ごあいさつ

本日は、お忙しい中、グランフォニック第10回定期演奏会に多数のご来場をいただき心よりお礼申し上げます。

グランフォニックが1994年5月に産声をあげて17年、記念すべき10回目の定期演奏会を迎えました。現在60名の団員が、これまでの皆さまへの絶大なるご愛顧にお応えすべく、「感謝」と「挑戦」をコンセプトに、真剣に取り組んでまいりました。オリジナル性を基調とし、オンリーワン合唱団を目指すグランフォニックは、常にお客さまに心地よくお楽しみいただくことを第一としております。

今回は、指揮者である成田正人が5年ぶりに復帰し、向川原慎一とともに二人の指揮者の指導を受けることができました。その二人が独自性を発揮し編曲した「花鳥風月」はまさに「感謝」を表現するステージです。

また、グランフォニックは常に新しいことに「挑戦」してまいりました。第三ステージの「SEA SHANTIES」は難しい英語の発音にチャレンジしております。そして、グランフォニックの毎回の演奏会にご披露する「演技のあるステージ」は、久し振りのオリジナル音楽物語「太郎の愛」という、なりた作品を得ました。地球環境にフォーカスした内容は、皆さまの心に何かしらのものを訴えることかと存じます。

今回、総合演出を堀口文成先生にお願いしました。ご経験豊富な、お客さま目線でのご指導で、また新しいグランフォニックスタイルを築きあげていただいております。

いよいよ演奏会の開演です。最後までお楽しみください。

グランフォニック団長 細江太喜雄

Opening グランファーレ序曲

原詩：F. v. Schober

作曲：なりた まさと

指揮：成田 正人

ピアノ：早瀬 洋子

電子オルガン：春田 光保

第10回の開幕はこの曲から。“これまでの感謝と、これからのチャレンジを象徴するように、高らかなファンファーレでスタートしたい”という団の思いから生まれた、グランフォニックのファンファーレ。団歌として2000年11月に作られた「グランファーレ～新しい風」をベースに、Schoberの「An die Musik（音楽に寄せて）」の詩を借りて、本日のために書き下ろしたものです。その詩の通り、音楽に、芸術に、そして皆様に、心からの感謝を込めて演奏します。

Program

花鳥風月

～独日：歌のあんそろじい～

花：独之花

日之花

鳥：独之鳥

日之鳥

風：独之風

日之風

月：独之月

日之月

花／風…編曲：なりた まさと

鳥／月…編曲：向川原 慎一

指揮：成田 正人

ピアノ：早瀬 洋子

口上：永井 一美

Program

八木重吉の詩による
男声合唱曲集

「八木重吉による五つの歌」

秋の空
素朴な琴
秋
雨
夕焼

作曲：畑中 良輔
編曲：向川原 愼一

「ひびくたましひ」

ゆくはるの 宵
ひびくたましひ
空を指す梢
美しい夢

作曲：向川原 愼一
指揮：向川原 愼一
ピアノ：早瀬 洋子

Program

SEA SHANTIES

～海の男たちの歌～

Haul Away Joe
What Shall We Do
With The Drunken Sailor
A-Roving
The Drummer And The Cook
Lowlands
Sailing Sailing & Swansea Town

構成／編曲：グランフォニック
指揮：向川原 愼一
ピアノ：早瀬 洋子

Program

音楽物語「太郎の愛」
～もうひとつの浦島伝説～

序ノ吟

I 場 地熱開発プロジェクト
II 場 助けた佳明
III 場 海はふるさと

中ノ吟

IV 場 龍宮城へきてみれば
V 場 乙姫様の玉手箱
VI 場 明かされた秘密
VII 場 小さな願い
VIII 場 この世の終わり？
結ノ場 太郎の愛

作：なりた まさと

指揮：成田 正人

ピアノ：早瀬 洋子

電子オルガン：春田 光保

乙姫：橋爪 圭子

佳明：花木 舞

太郎：小嶋 聡

専務：黒田 泰男

タイ：田中 良夫

ヒラメ：伊東 健光

組曲『花鳥風月』について

この組曲は、グランフォニック第4回定演用として2001年に編まれました。当時としては斬新な発想で作られており、2002年の「梅雨晴れコンサート」、2010年の「京都ジョイントコンサート」でも再演されています。当団のこれまでの歩みを象徴する作品として、今回のプログラムに組み込みました。

「花・鳥・風・月」をテーマにした、ドイツ語と日本語の芸術歌曲・唱歌・民謡・学生歌等々、様々な楽曲を持ち寄り、切って貼ってコネて一つの作品に仕立ててあります。しかも多様なテイストを味わって頂くために、「花・風」と「鳥・月」を二人の指揮者がそれぞれ分担して編曲、それでいて全体としては「起承転結」が整ったものにしようという試みでした。

大半がよく知られた楽曲で構成されており、楽しみ方はいろいろです。主軸となる楽曲を楽しむもよし、隠し味として一瞬顔を出したメロディに気付いてニヤリとするもよし、そんなことには委細構わず一編の新しい作品として楽しむもよし。

ここでは主軸となる楽曲だけ、ヒント風にご紹介しておきましょう。

《花の巻》独：文豪ゲーテのこの詩には、世界中で121通りの曲が付けられているそうです。日：日本で花といえば桜。一面の桜をイメージさせるのは、やはり滝廉太郎の…でしょう。

《鳥の巻》独：日本では「霞か雲か」と歌われるドイツ民謡。実は「いろいろな鳥たちが集い来て歌っているよ」と春の到来を喜ぶ歌です。日：西条八十が自分の人生になぞらえて書いたといわれる悲しい鳥の歌。でも、希望は捨てずに。

《風の巻》独：毎年恒例ボックビールの蔵開きを待ちわびる学生たちの様子を、南ドイツの方言で歌います。日：蝶々もひらひら豆の花、七色畑に妹の…都会ではすっかり見なくなった懐かしい光景ですね。

《月の巻》独：著名なピアノ曲や交響曲に乗せてドイツの子守歌を。日：くっきり冴え渡った月も佳いけれど、おぼろに霞む月にも趣きがあります。

八木重吉の深い静かな「つぶやき」

北村透谷、樋口一葉、石川啄木、金子みすゞ、中原中也、立原道造、彼ら近代日本の詩壇で重要な位置を占める詩人たちに共通することは、皆30歳までに夭逝したということです。彼らはそれぞれに短い人生の中で、個性の輝きを炸裂させて珠玉の作品群を遺してくれましたが、八木重吉もまたその中のひとりです。

彼は明治31年現在の東京都町田市に生まれ、師範学校を経て各地で英語科教諭を務めました。23歳頃から本格的な詩作にはげみ、敬虔なキリスト教信者として詩と信仰合一の生活を求めていきました。結婚後二子をもうけ、27歳の時には処女詩集「秋の瞳」を新潮社から上梓しますが、翌年すでに第二期と診断される肺結核を発病。昭和2年の秋、29歳で昇天しました。

三千編にも及ぶ重吉の詩は、どれもたいへん短いことが特徴です。短いといえば、例えば俳句は17文字という字数制限や季語などによって定められた様式の中での表現ですが、重吉はやわらかい言葉を自由奔放に、そして簡潔に紡いで彼の世界を作り上げました。中には10文字あまりで、詩のタイトルと間違えかねないような短いものもあります。

敬虔なキリスト教信仰心をバックボーンとして、病におかされた死を予感するかのように、時には直截に時には間接的に生と死を見つめ、生きることの重さやありがたさを投げかけてくれます。でもそれは決して大げさな表現や教訓的な物言いではなく、彼自身のいわば静かな「つぶやき」とでもいうものです。今流行のツイッターのような感じでしょうか？

ただ、その「つぶやき」は「つねに空と地上と自己を凝視し続けた真摯な魂」(注：詩人高野喜久雄による)によって響く、痛切な深い意味を持った言葉でした。

「八木重吉による五つの歌」

作曲者、畑中良輔先生は89歳の今も音楽界の重鎮として演奏・評論・教育各分野で活躍されています。この作品は約60年前のもので、作曲者の若い感性が、重吉のひたむきな祈りと向き合って生まれま

した。今も、多くの声楽家の貴重なレパートリーとして演奏されています。グランフォニックは2006年第8回定期演奏会で畑中先生を客演指揮者にお迎えしましたが、そのご縁から先生からのお奨めも頂いて、今回の男声合唱のための編曲版が生まれました。第4曲目の「雨」は作曲家多田武彦氏によって同名の合唱組曲の最終曲として作曲され、男声合唱の名曲の一つとしてたいへん人気のある作品となっています。

「ひびくたましひ」

上述の「五つの歌」を編曲した向川原愼一氏が、その5つの詩と畑中作品の音楽性を十分に意識しつつ、重吉の詩集「秋の瞳」から4編を選び作曲しました。本来独唱用の歌曲である「五つの歌」とは対照的に、最初から合唱曲としての音楽的な語り口を多用することで、男声合唱の表現幅を広げる試みがなされています。

作曲者は“この4曲は独立した曲ではありますが、起承転結の流れで構成され、さらに言えば「五

つの歌」と連続して歌われることによって、八木重吉の心の世界を表現することに近づけるのではないかという前提で生まれたものです。”と語っています。

本日がこの作品の初演です。

以下、前出の詩人高野喜久雄氏による「素朴な琴」の解説を引用します。

…この「琴」は何ですかなどと、自分に向かっても問いかけていることがある。…たぶん、琴は先ず第一に「琴そのもの」だというべきだろうか。…同時にそれはまた「琴のような何か」だと言わずにいられないものだ。「琴そのもの」であり、かつ「琴のような何か」でもあるものを、おそらく私たちは自分自身の心と呼んでいたはずだ。だからこそ素朴な琴、つまり〈ありのままの心〉は「秋の美しさにたえかね」て、ほとんど見えない〈誰か〉の指に弾かれたかのように、ひとりで鳴り出すほかはない。そしておそらく、その〈誰か〉の名を呼ぶ旅は永遠に終わらない。（芸林書房、八木重吉詩集より）

秋の空

秋が呼ぶような気がする
そのはげしさに耐えがたい日もある
空よ
そこどこへ
心をあずかつてくれないか
しばらくそのみどりのなかへ
やすませてくれないか

素朴な琴

このあかるさのなかへ
ひとつの素朴な琴をおけば
秋の美しさに耐へかね
琴はしづかに鳴りいだすだらう

秋

秋になると
ふとしたことまでうれしくなる
そこいらを歩るきながら
うっかり路をまらがへて
きついたときなぞ
なんだか ころころうれしくなる

雨

雨のおどりがきこえる
雨がふってわたのた
あのおどるように
そつと世のためにはたらいてみよう
雨があがるように
しづかに死んでゆこう

夕焼

ゆう焼をあび
手をふり
手をふり
胸には小さい夢をどぼし
手をにぎりあわせてふりながら
このゆうやけをあびていたいよ

ゆくはるの宵

このよひは ゆくはるのよひ
かなしげな はるのめがみは
くさぶえを やさしき唇(くち)へ
しつかと おさへ うなだれてゐる

ひびくたましひ

ことさら
かつぜんとして
秋がゆふぐれをひろげるころ
たましいは 街を
ひたはしりにはしりぬいて
西へ 西へと うちひびいてゆく

空を 指す 梢

そらを 指す
木は かなし
そが ほそき
こずゑの 傷さ

美しい 夢

やぶれたこの 窓から
ゆふぐれ 街なみいろづいた
木をみたよる
ひさしぶりに 美しい夢をみた

Sea Shanties

シャンティ (shanty、時にchantey又はchantyと綴られることもある) とは、15世紀から蒸気船が登場する19世紀前半までに歌われた水夫達による肉体労働時の歌で、当初元気づけのための掛け声が歌の形となり、リーダーがさあ歌えと音頭をとった。やがて水夫の歌全てをシャンティと呼ぶようになった。

大航海時代 (15世紀中期～17世紀中期)、インド、アジア大陸、アメリカ大陸等への航路の発見により、ヨーロッパ列強による植民地主義的海外進出が開始された。折しも17世紀から18世紀後半にかけて、ヨーロッパに於いて絶え間なく続いた諸国間の諸戦争、内乱、宗教上の迫害、社会の大変動により膨大な数の人民が窮乏化した。そして彼らのみならず中産階級までもが信教の自由と経済的自立を求めて新大陸へ移民として渡ったため、奇しくも本国の植民地政策に資することになった。イギリスのシャンティは、18～19世紀にかけて全盛期を迎えたといわれるが、これは、スペインの無敵艦隊を全滅させた強大な海軍力を基に、全世界にまたがる植民地から莫大な富を集めて隆盛を迎えたイギリスと時期を同じくするものである。

本日は、そのイギリスゆかりのシャンティを選んで海の男たちの歌をお届けします。

1. Haul Away Joe (ジョー 綱を引け)

ゆったりした トゥステップで歌われるイギリスのシャンティで、心を鼓舞するような泥臭い掛け声が、水夫たちの労働の辛さを物語っている。

2. What Shall We Do With The Drunken Sailor (酔いどれの船乗り)

イギリスの海の労働歌としては、最も古いもので、酔っ払いの水夫を早口言葉でコミカルにからかっている。シャンティを都会的センスで男声合唱に料理した名編曲。

<この曲から第5曲目までは、かつてアメリカの合唱界をリードしたR.ショウとA.パーカーのコンビによる編曲版及びその一部を採り演奏します>

3. A-Roving (さすらい)

これも、イギリスのシャンティの代表曲の一つ

で、イングランド民謡の調子がよく出ている。アムステルダムにいる美人に首ったけになっただけで、あとでひどい目にあって、もうこりこり… (みんな気をつけよう！)

4. The Drummer And The Cook (ドラマーとコック)

あるところに、つまらぬ鼓手とやぶにらみの料理女がいた。二人は好き合って海岸でデートをしていて、男が「いい天気だね」と言ったところ「あんた、それだけしか言えない」となじられ、いろいろあったあげく結婚式を挙げる運びになったものの、教会で彼女のやぶにらみの目がなんと牧師に色目を使っていたので、花婿どのは、びっくり驚天です。

5. Lowlands (ローランド)

アメリカのシャンティ「シェナンドー」に先立つか、或いは同じ頃に生まれたものと推定されるひときわ美しい歌。もともとは、南部航路のイギリス船の水夫が黒人霊歌にヒントを得て歌い始めたものではないかと言われている。

My dollar and a half a day (俺の稼ぎは、一日たった1ドル50セントだ) という歌詞が繰り返されるが、続いてA dollar a day is a Hoosier's pay (米国インディアナ州の住民の稼ぎは、一日1ドルで俺の稼ぎは彼らとあまり変わらず、ひどいものだ) と歌われることもあり、新大陸の影響が窺われる。

6. Sailing Sailing & Swansea Town (セイリング、セイリング&スワンシータウン)

この2曲は、行進曲風の明朗さに溢れている船出のシャンティで、前者は、ディズニー映画にも取り上げられ、現在も幅広い人々に愛唱されている。また後者は、イギリスのウエールズ地方にある港町で、この地方の船乗りが恋人に別れを告げ、ホーン岬 (南米最南端の岬) を越えサンフランシスコへ行くが、再び懐かしい恋人のもとに戻ってくるという歌。

今回、編曲者は、この異なる二曲を二つのコーラス隊に分担させ、あたかも二艘の船の水夫達が夫々のたぎる想いと情熱を、交互にあるいは共に歌い上げることで、シャンティのフィナーレを飾るに相応しい曲としている。

音楽物語『太郎の愛』について

2011年3月11日、この国は未曾有の試練にさらされました。この原稿を書いている4月半ば現在、福島原発はなおも深刻な状況下にあります。地震と津波だけでも甚大な被害を出したというのに、この原発問題は、更に多くの人たちから平穏な生活を奪い取りました。このままで行くと、他国にまで迷惑をかけるかも知れません。

そんな折、たまたまラジオを聴いていたところ、あるリスナーのこんな声が紹介されていました。

「日本にこれほどたくさん原発があることを、今回初めて知りました。私たちが必要以上に快適な生活を望み続け、電気を湯水のように使い続けているうちに、その要求に応えようと、原発が1基また1基と増えていたのですね。だったら、必要最小限しか電気を使わないよう、自分の生活スタイル自体を変えることが必要なのだと痛感しました。」

何と、2009年12月にシナリオを書き終えた『太郎の愛』のメインテーマの大半が、この言葉の中に凝縮されているではありませんか。

作者は2004年から5年間、仕事で中国に滞在していました。その間、加速度的に経済成長を続ける大国の様子を頼もしく実感しながらも、先進国が辿ったような資源大量消費型の成長モデルを踏襲してしまつて良いのだろうか、一抹の不安を覚えたものでした。

2009年10月、グランフォニックの指揮者に復帰し、第10回定演用の音楽物語を書くことになって、団から頂戴した“お題”は、①「環境・生物多様性」と、②「チャイナドレスの美女」の二点。①と②の関連はよく分かりませんでした。物語の根底には、迷わず、資源大量消費型社会に対する不安感（＝地球が人間の飽くなき欲求に耐え切れなくなる）を据えることにしました。

2010年3月末に作曲終了。その後、演出の堀口先生や団員からの提案を受けては部分改修を続け、本日の姿に落ち着きました。よもや《この世の終わり？》の阿鼻叫喚の世界が、現実のものになろうとは。それなら佳明と太郎が訴える、切なる“願い”も現実のものになってもらいたい。

ほら、聞こえてきませんか？昔むかし人間が自然

と共に生き、生かされていたことを思い出そう、という玉手箱の呼び掛けが…

「この星は、人間のためだけにあるのではない。ほんの少しでも思いやろう、僕らのために疲れた地球を！ほんの少しだけ変えてみよう、日々の暮らしのやり方を！」

被災地の皆様が、一日も早く日常生活を取り戻されるよう祈りつつ。 (なりた まさと)

※Ⅲ場挿入歌原曲「海はふるさと」

…詩・曲：王立平、訳詩：趙非

【ストーリー】

グランフォニック商事に勤める太郎は、若くして地熱開発プロジェクトの責任者に抜擢され張り切っていた。ある日の会社帰り、暴漢から佳明（かめい）という中国娘を助ける。後日「お礼がしたい」という佳明を訪ねると、そこは太郎が進めるプロジェクトの現場に近い海辺だった。

助けた佳明に連れられて、着いたところは乙姫様が治める龍宮城。そこでは様々な生き物たちが、悠久の時の流れの中で、それぞれが役割を持って仲良く暮らしていた。太郎と佳明は互いに惹かれ合う。やがて太郎は、発展開発の旗標の下に、モノやカネを追い求め、ノルマや時間に追われていた地上での生活に疑問を持つようになった。「幸せって何だろう？豊かさって何だろう？」と。

すっかり龍宮城の生活に馴染んだ太郎に、乙姫様は玉手箱を与える。自分の大切なものを差し出せば、それに見合った願いが一つだけ叶うという不思議な玉手箱だった。

折しもその時、大音響と共に龍宮城を支える天空が崩れ始める。地熱開発のための海底掘削工事が、龍宮城の直ぐ近くで始まったのだった。逃げ惑う龍宮城の生き物たち。その中で乙姫様の口から、太郎をめぐる意外な秘密が明かされる…

PROFILE

堀口 文成 総合演出 *Fuminari Horiguchi*



舞台俳優としてデビューし、舞台活動の傍らTVドラマ等に出演。その後、演出家としてフリーになり、演劇・オペラ・ミュージカル等の演出を数多く手掛けてきた。最近はおペラ・ミュージカルの演出を中心に、ショートミュージカルを多数企画しており、コンサート形式の演出でもクラシックからポピュラーまで幅広く活動。また、西日本を中心に行政・企業のイベント演出も手掛けている。

主な演出作品：オペラ「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」「トゥーランドット」「蝶々夫人」「魔笛」「天国と地獄」他。ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」「ウエストサイド物語」他。イベント「瀬戸大橋落成記念フェスティバル（岡山）」「坂本龍馬誕生150年祭（高知）」「ロス・オリンピック前夜祭（ロサンゼルス）」他。

向川原 慎一 指揮 *Shin-ichi Mukaigawara*



早稲田大学卒業。長年にわたり合唱指揮・指導を行い、現在もグランフォニックをはじめいくつかの団体の指揮者を務める。

さらに、歌曲を中心とした作曲活動を続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）では2曲が本選に進み、優秀賞と入選を得た。また合唱編曲ではカワイ楽譜から「混声合唱のための5つのトスティエ歌曲」と「ドボルジャークのジプシーの歌」が出版されている。

小林研一郎氏に師事。

成田 正人 指揮 *Masato Narita*



グランフォニック創設メンバー。5年間の中国生活から戻り、09年10月より当団指揮者に復帰。交声合唱団ミューザヴォーチェ、上海グリークラブ指揮者。慶應義塾大学在学中、故・木下保氏、畑中良輔氏らの薫陶を受け、指揮法を伊藤栄一氏に師事。学生時代から合唱指揮の傍ら作詞・作曲・編曲に勤しみ現在に至る。編曲モノは数知れず、シナリオ起しから作曲まで自ら手掛ける音楽物語形式の作品も多数。代表作に『子犬のチロの物語』、男声合唱《愛の三部作》：『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破白人の恋』、盲導犬支援団体アマービレ委嘱作『ハーネスで握手！』、常滑音楽祭委嘱作『ブチ・ハラハの謎』、華音の会委嘱作『歌うは愛する人のわざ』等々。

橋爪 圭子 ソプラノ

Keiko Hasizume



愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。

名古屋市民会館新進演奏会紹介コンサートオーディションで声楽部門最優秀賞を受賞。同コンサートに出演。名古屋二期会のオペラやコンサートに数多く出演。2010年愛知県刈谷市総合文化センター開館記念事業市民音楽劇「万燈の輝く夜に」で泉田幸子役を好演。グランフォニックの演奏会では、今までに、なりたまさと氏作品「絵描きと少年」「不破白人の恋」「河畔の約束」のヒロイン役として出演。

故笈義也、飯山恵己子、飯田純子、佐々木成子、児井恵、岸本力、藤井多恵子、村田健司、関定子各氏に師事。

名古屋二期会会員・理事。同朋高校音楽科及び名古屋音楽学校講師。名古屋YMCAクリスマスキャロル指導。

花木 舞 ソプラノ

Mai Hanaki



名古屋音楽大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。

大学院定期演奏会、歌曲演奏会出演。モーツァルト生誕250年記念オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」デスピーナ役、「のはらひめ」まり役、「魔笛」パバゲーナ役、「サウンドオブミュージック」マリア役等多くの舞台に出演。

2010年は名古屋市文化振興事業団主催オペレッタ「チャルダッシュの女王」他、刈谷市総合文化センター開館記念事業市民音楽劇「万燈の輝く夜に」泉田千代子役で出演。

名古屋オペラ協会研修生修了後、グループ「nano-sette」を結成。毎年三重県にてオペレッタ公演、その他テーマパークや小中学校でも公演を行っている。

伊藤晶子氏に師事。

早瀬 洋子 ピアノ

Yohko Hayase



愛知教育大学音楽科、同大学院修了。

学生時代より、名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、三重オペラ協会、岐阜県産業文化振興事業団、名古屋芸術大学、長久手オペラレクチャーコンサートなどで多数のオペラ、オペレッタ、ミュージカルの稽古ピアニスト、コレパティトゥーア、ピアノ公演ピアニストを務める。

栗原一身氏、平尾はるな氏、山崎晴代氏、三浦洋一氏、ジャンニ・クリスチャック氏らに師事。

伴奏ピアニストとして活動する傍ら、コーラス指導も手がける。また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラの授業助手を担当している。

春田 光保 電子オルガン

Miho Haruta



浜松学芸高等学校芸術科音楽・電子音楽課程卒業。

古市正子氏、鈴木亜美氏に師事。現在は名古屋芸術大学 音楽学部 演奏学科 電子楽器選択コースに在学中。

増田豊氏の下、エレクトーンを主にソロやアンサンブル、他楽器とのコラボレーションなどを幅広く学んでいる。

THE GRANPHONIC **T¹**

池田 祐一	伊藤 高潤	鹿住 誠
片田 保彦	神谷 立正	黒岩 実
小林 武	小宮 俊英	佐々木正義
鈴木 英孝	田中 良夫	藤田 東一
三ツ松 平		

THE GRANPHONIC **T²**

新谷 岳史	飯田 公男	石井 清
伊東 健光	井上 恵太	大浦 亮一
河内 幸雄	佐藤 正	柴田 道昭
中村 嘉夫	成田 正人	根木 和彦
間瀬 譲	松浦 治徳	三ツ口勝弥
森重 雅夫		

THE GRANPHONIC **B¹**

天野 浩	伊藤 慎二	神田 久嗣
黒田 泰男	芝木 昌一	寺島 正晃
永井 一美	早澤 信昭	弘瀬 嘉夫
細江太喜雄	水野 邦明	安田 俊哉

THE GRANPHONIC **B²**

浅井 良之	浅野憲一郎	犬塚 弘道
井ノ口貴敏	木村 文隆	小嶋 聡
鈴木 秀樹	外村 俊夫	富田 敏夫
成井 詔彦	古田 和則	藤山 祐司
間瀬 裕士	松原 成憲	村井 襄介
村上 信		

グランフォニック 第10回定期演奏会

スタッフ

総合演出	堀口 文成
照明	古川 靖
	(株)若尾総合舞台
音響	吉田 友和
演出助手	常川 浩

団長	細江太喜雄
幹事長	片田 保彦
副幹事長	伊藤 慎二
財務部長	池田 祐一

パートマネージャー

(T1)	黒岩 実
(T2)	大浦 亮一
(B1)	天野 浩
(B2)	成井 詔彦

音楽スタッフ

指揮者	成田 正人
副指揮者	神田 久嗣
コンサートマスター	田中 良夫
楽典長	伊東 健光
クリエイティブ委員長	鹿住 誠
クリエイティブ委員	小嶋 聡
パートリーダー	

(T1)	田中 良夫
(T2)	伊東 健光
(B1)	神田 久嗣
(B2)	浅井 良之

名誉団員・指揮者 向川原 慎一

お問い合わせ：細江 tel:090-1244-2234

THE GRANPHONIC
http://www.granphonic.com

グランフォニック アーカイブ

1994年、学生時代を音楽とともに過ごしてきた
 オールドボーイ達によって始められた「ちょっと上品な暇つぶし」は、やがて生活の糧を得ている仕事を副業と呼び、「グランフォニック」を本業と称するまでになってしまいました。最初は古き良き時代への懐古と、究極の自己満足の世界でした。しかし、私たちの姿を見て「元気になった」「つらいことを少し忘れることができた」等のお言葉を賜り始めると、佑ちゃんみたいに「私たちは何か持っている」なんて思うようになりました。思い込みでしょうが、それでも、単に練習してきた歌を披露するのではなく、「生きる喜び」や「音楽の楽しさ」みたいなものを伝えていけたらという思いで、まだまだ拙い技量ですが、一生懸命レベルアップに努め、ごちさないけれど精一杯演技し踊ってきました。また、私たちは一貫してオリジナリティーを追求してきました。「普通じゃおもしろくない」というややひねくれた集団なのかもしれませんが、ともかく独

自の編曲や創作にこだわってきました。それを支える多くの才能を抱えていた（少々手前みそですが）ことも幸運でした。今回も、本邦初演作はもちろん、よく知られた曲といえども少しひねりを効かせたものになっています。そして、恒例となった「お遊戯」も・・・。

本日、第10回定期演奏会という節目を迎え、これまで私たちを支え応援してくださった、畑中良輔先生・小林研一郎先生をはじめとする指導者の皆様、演出・客演・スタッフの皆様、早瀬先生をはじめとする伴奏者の皆様、暖かく見守ってくれた家族、会場にお運びいただいたお客様等々、すべての皆様にご心からの感謝の気持ちを込めて歌います。

足掛け17年という時の流れの中で、若手を加えつつも平均年齢がほぼ比例して高くなっている私たちですが、これからも命ある限り歌い続けていきます。引き続き「グランフォニック」を何卒ご最員のほどよろしくお願い申し上げます。謝々。

1st

「なごやかコンサート」
 (東西四大学OB合唱団東海)
 1998年1月31日(土)
 名古屋市芸術創造センター



1. プロローグ VOCALIZE 間奏曲

作詞：武川 寛海 作曲：石井 歓
 作曲・編曲・指揮：なりた まさと
 向川原 慎一

2. 「マザーグースの歌」より

作詞：谷川俊太郎 作曲：青島 広志
 指揮：美口 啓子 ピアノ：西野 亜理紗
 ヴォーカリーゼ：村瀬 千恵
 合唱：コール夕路 SARAハーモニー

3. 男声合唱とモノローグによる「パパの子守歌」 ～とあるサラリーマンの日記より～

作：なりたまさと 指揮：成田 正人

ピアノ：三ツ口 朱野
 語り：小澤 直樹 弘瀬 紗綾

4. 男とをんな、やんぬるかな男 (名作オペラ&ミュージカル おいしいとこだけ)

指揮：向川原 慎一 浅井 良之 稲熊 裕之
 アンサンブル編曲：伊藤 奈菜子 稲熊 裕之
 ピアノ：西野 亜理紗
 テノール：笠井 幹夫 ソプラノ：橋爪 圭子
 アンサンブル：NAGOYA ENSEMBLE
 声・女：紀ノ国 悦子 男：鈴木 林蔵
 脚本：高橋 淳 演出：栗山 紘和

2nd 「さわやかコンサート」 (東西四大学OB合唱団東海)
1999年4月17日 (土) しらかわホール



- | | |
|---|---|
| <p>1. PROLOGUE
作曲：向川原 慎一 指揮：成田 正人</p> <p>2. 愛のシューベルト
作曲：フランツ・シューベルト
指揮：向川原 慎一</p> <p>3. アイシテールノ、ウツアイーノ、イタリアーノ
編曲：稲熊 裕之 伊藤 奈菜子
編曲・指揮：向川原 慎一
ピアノ：西野 亜理紗</p> | <p>弦楽アンサンブル：オーネンストリングス
オーボエ：小室 真美
メゾソプラノ：夏目 久子
合唱：アンサンブル シオン アンサンブル円
アマリリス 東西四大学OB合唱団東海</p> <p>4. ソプラノと男声合唱によるファンタジー
「絵描きと少年」
作：なりた まさと 指揮：成田 正人
ソプラノ：橋爪 圭子 少年：向川原 かよ</p> |
|---|---|

3rd (グランフォニックに改称) 2000年10月28日 (土) 名古屋市芸術創造センター



- | | |
|---|--|
| <p>1. 三者三様 Ständchen
あなたは、どの「シュテンチェン」なら
心を開いてくれますか？
編曲：なりた まさと 指揮：成田 正人
ピアノ：水野 勝 メゾ・ソプラノ：夏目 久子</p> <p>2. 男声合唱のための歌曲集
「夜の静寂 (しじま)に」
編曲・指揮：向川原 慎一 ピアノ：西野 亜理紗</p> <p>3. 愛の歌によるコラージュ・メドレー
「月光セレナーデ」
選曲・構成・編曲 橋本 剛 指揮：向川原 慎一</p> | <p>ピアノ：ミツコ 朱野
弦楽アンサンブル オーネンストリングス
合唱：アンサンブル シオン アンサンブル円
グランフォニック</p> <p>4. 不破白人 (ふわ・うすと) の恋
～ゲート「ファウスト」の構図を借りたひとつの物語～
作：なりた まさと 指揮：成田 正人
ピアノ：水野 勝 ソプラノ：橋爪 圭子
メゾソプラノ：夏目 久子
総合演出：池山 奈都子
照明：曾我 裕幸 舞台監督：野村 八千代</p> |
|---|--|

4th

2002年3月24日（日）
名古屋市芸術創造センター

1. 花鳥風月
～独白：春の詞華集～
編曲：なりたまさと
向川原 慎一
指揮：成田 正人
向川原 慎一
ピアノ：西野 亜理紗
ドイツ語指導：Gundula Tumar 伊東 健光
2. ある愛の航跡 ～ミュージカル「ニュームーン」セレクション～
作詞：オスカー・ハマースタインⅡ
作曲：シグマンド・ロンバーク 訳詩：グランフォニック
編曲：福永 陽一郎 伴奏編曲：稲熊 裕之
指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
3. 男声合唱・女声合唱とピアノ・フルートによる
「河畔の約束」～もうひとつの七夕伝説縁起～
作：なりた まさと 指揮：成田 正人
ピアノ：早瀬 洋子 フルート：近藤 祐加 日置 智美
ソプラノ：橋爪 圭子 メゾソプラノ：夏目 久子
女声：ニューセンチュリーコーラス Nagakute
総合演出：池山 奈都子
照明：曾我 裕幸 衣装協力：坂 治栄



5th

2003年10月26日（日）
名古屋市芸術創造センター

1. 男声合唱とピアノの為の
さすらう若人の歌
作曲：グスタフ・マーラー
編曲：福永 陽一郎
指揮：成田 正人
ピアノ：早瀬 洋子
ドイツ語指導：
Gundula Tumar
2. 男声合唱組曲 雨より
作曲：多田 武彦 構成：なりた まさと
指揮：成田 正人 ピアノ：早瀬 洋子
3. 男声合唱による滝廉太郎歌曲集「四季彩」
作曲：滝 廉太郎 編曲・指揮：向川原 慎一
ピアノ：早瀬 洋子 ソプラノ：児玉 弘美
4. 合唱劇 「玉照姫外伝」～笠寺観音縁起より～
作：稲熊 裕之 補作：齋藤 敏明 振付：豊田 公子
指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
太鼓：稲熊 裕之
ソプラノ：藤田 桂子 内田 公仁子
ダンス：公門 美佳 吉岡 恵美子 児玉 和子
総合演出：齋藤 敏明





6th 2005年5月15日(日)
 名古屋市民会館中ホール
 2005年5月29日(日)
 東京・銀座プロッサム(中央会館)



1. 男声合唱曲集 「空に、樹に・・・」
 作曲：新実 徳英 指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
2. 懐かしき外つ国(とつくに)の歌
 企画・構成・訳詞・編曲：グランフォニック
 指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
3. スタジオジブリ作品 (賛助ステージ：東京公演のみ)
 アニメコーラスセレクション 女声編より
 編曲：倉知 竜也 指揮：北村 協一 ピアノ：中島 園枝
 合唱：慶応義塾ワグネルソサイエティOG合唱団
4. 喜歌劇「メリー・ウィドウ」より Die lustige Witwe
 作曲：フランツ・レハール 合唱編曲：北村 協一版 他
 構成：グランフォニック 指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
 ソプラノ：内田 公仁子 ヴァイオリン：平田 文
 マンドリン：マンドリンアンサンブル ドルチェ
 ダンス：松浦 忍 松岡 由美子
 総合演出：岩川 均 舞台監督：北本 梓 照明：金子 康雄
 演出助手：鈴木 香里



7th 2006年11月11日(日)
 名古屋市民会館中ホール

客演指揮に畑中良輔氏、朗読に伊藤京子氏をお迎えました。



1. Die Neuesten Liebeslieder
 (愛の歌 最新版)
 作曲：ヨハネス・ブラームス
 編曲：福永 陽一郎
 構成：グランフォニック
 指揮：向川原 慎一
 ピアノ：早瀬 洋子 若杉 弘子
 ソプラノ：宮崎 有希子
 アルト：倉本 亜紗
2. 男声合唱組曲「水のいのち」
 作曲：高田 三郎 作詞：高野 喜久雄
 客演指揮：畑中 良輔
 朗読：伊藤 京子
 ピアノ：早瀬 洋子
3. グランフォニック・ミュージカル
 「学生王子ハイライト」
 作曲：シグマンド・ロンバーク
 脚本・演出：岩川 均
 編曲・構成：グランフォニック
 指揮：向川原 慎一
 ピアノ・チェンバロ：早瀬 洋子
 ソプラノ：毛利 美奈子
 総合演出：岩川 均
 舞台監督：北本 梓
 照明：石原 福雄
 衣装：下斗米 雪子
 演出助手：鈴木 香里



8th

2008年5月6日(土)
愛知県芸術劇場
コンサートホール

客演指揮に小林研一郎氏を
お迎えました。

1. 男声合唱による日本歌曲集
「花筐（はながたみ）」
編曲・指揮：向川原 慎一
ピアノ：早瀬 洋子
2. 男声合唱組曲 「月光とピエロ」
作詩：堀口 大学 作曲：清水 脩
客演指揮：小林 研一郎
3. 落語による男声合唱組曲「おとこはおとこ」
作詩：阪田 寛夫 作曲：大中 恩
編曲・指揮：向川原 慎一
ピアノ：早瀬 洋子 池谷 府希子
4. 男声合唱とピアノの為に さすらう若人の歌
作曲：グスタフ・マーラー
編曲：福永 陽一郎
客演指揮：小林 研一郎
ピアノ：早瀬 洋子
総合演出：右来 左往
照明：吉戸 俊祐 音響：桑山 征宏
アナウンス：中田 裕子



9th 2009年9月23日(水)

愛知県芸術劇場コンサートホール

客演指揮に小林研一郎氏を再度お迎えました。

1. ミュージカル「男たちのレ・ミゼラブル」
作：クロード=ミッシェル・シェンベルク
訳詞：岩谷 時子 編曲：小嶋 聡
指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
テノール：鍋木 勇樹
2. 男声合唱曲集 「トスティ！」
作曲：フランチェスコ・パオロ・トスティ
編曲・指揮：向川原 慎一 ピアノ：早瀬 洋子
3. 男声合唱組曲 「水のいのち」
作詩：高野 喜久雄 作曲：高田 三郎
客演指揮：小林 研一郎 ピアノ：早瀬 洋子
総合演出：池山 奈都子
ステージマネージャー：磯田 有香 照明：曾我 裕幸



<その他の主な活動>

2000年5月13日

ジョイントコンサート with “Singersなも”
しらかわホール

2001年5月11日～13日

韓国演奏旅行 韓国・聞慶市 他

2002年1月19日

津賀田中学校総合学習講座
名古屋市立津賀田中学校音楽室

2002年6月23日

梅雨の晴れ間のコンサート
名古屋市芸術創造センター

2002年8月25日

愛知万博支援コンサート
名古屋市音楽プラザロビー

2005年6月19日

星が丘テラス 父の日コンサート
星が丘オープンステージ

2006年6月4日

男声合唱ジョイントコンサート
愛知県芸術劇場コンサートホール

2008年7月5日

演奏会形式 オペラ「ナブッコ」
しらかわホール

2009年5月30日

第2回男声合唱ジョイントコンサート
愛知県芸術劇場コンサートホール

2009年6月23日

第48回愛知県合唱祭
愛知県勤労会館

2010年6月12日

第49回愛知県合唱祭
稲沢市民会館

2010年10月3日

ジョイントコンサート in 京都
京都産業大学神山ホール

THE
GRANPHONIC
CONCERT 10th

グランフォニック 第10回定期演奏会

THE GRANPHONIC CONCERT 10th

グランフォニック 第10回定期演奏会



ありがとう、
そしてこれからも

I 「花鳥風月」

～独白：歌のあんそろじい～

編曲：なりた まさと
向川原 慎一

II 八木重吉の詩による 男声合唱曲集

「八木重吉による五つの歌」

作曲：畑中良輔
編曲：向川原 慎一

「ひびくたましひ」

作曲：向川原 慎一



III SEA SHANTIES

～海の男たちの歌～

構成／編曲：グランフォニック

IV 音楽物語 「太郎の愛」

～もうひとつの浦島伝説～

作：なりた まさと
電子オルガン：春田光保
乙姫：橋爪圭子
佳明：花木 舞

指揮：向川原 慎一（II・III）
成田正人（I・IV）
ピアノ：早瀬洋子

総合演出：堀口文成
照明：古川靖（株）若尾総合舞台
音響：吉田友和

2011
5.28 5:00pm開演 (4:30pm開場)
愛知県芸術劇場コンサートホール

指定席：2,500円 自由席：1,500円

お問い合わせ：片田 tel:090-7696-7195
THE GRANPHONIC <http://www.granphonic.com>

土